

しもる

imoru

Rumoi municipal hospital
Public relations magazine

2019年5月

No. 11



留萌市立病院
「しもる」誌
広報

助産師と赤ちゃん

今回は、当院の助産師と赤ちゃんに FOCUS を当てました。留萌市立病院は、留萌地区唯一の分娩施設として大きな役割を担っており、年間約 130 名の赤ちゃんが生まれています。

助産師

どんな職種??

助産師は、保健師助産師看護師法で「厚生労働大臣の免許を受けて、助産又は妊婦、褥婦若しくは新生児の保健指導を行うことを業とする女子」と定められています。

2002年に看護師と同時に助産婦から助産師と改称されました。アメリカ・イギリス・オーストラリアには男性の助産師もわずかに活躍していますが、日本では男性の産婦人科医はいますが助産師は女性だけです。

どんな仕事??

助産師の仕事は、お産の支援は当然のことながら、妊婦の健康管理、食事・運動の指導、出産後の体調管理、母乳指導、乳児指導など健康に関する教育・相談を行っています。また、助産師は正常分娩であれば医師の指示を得ずに自身の判断で助産行為を行うことができ、働く場所は病院だけではなく、自分で助産院を開院することもできます。

どうしたらなれる??

助産師になるためには、まず看護師の免許を持っていることが前提となります。看護師としての職務経験は関係なく、看護師国家試験に合格し、看護師資格を取得している方が、助産師教育機関で1年以上学ぶことで助産師国家試験の受験資格を得ることができ、試験に合格することで助産師として働くことができます。

活躍の場は??

少子化により、分娩数が相対的に少なくなっていることから助産師の活躍の場は年々減少傾向にあると見られていますが、助産師が妊婦の健診・指導を行う「助産師外来」を取り入れている施設も多く、活躍の範囲は更に広がっています。

いのちを育む仕事



2階東病棟スタッフ

2階東病棟で助産師として働いている笹原久美子 看護科長にお話を聞きました。

Q. 当院の助産師の仕事は？

当院の助産師は、産婦人科外来・助産師外来などの外来部門と、産婦人科・小児科・女性患者さんを受け入れるレディース病棟に所属しています。

主に妊娠・出産・産後のケア・新生児ケアを中心に、思春期～更年期など女性のライフサイクルに寄り添い支援する専門職です。混合病棟なので、産婦人科の患者さんだけでなく、一般診療科の患者さんのケアも担当しています。

Q. なぜ、助産師になったんですか？

私は看護学生の頃から、いずれは地元に戻って貢献できる仕事をしようと思っていました。卒業の頃に、助産師不足で閉鎖となっている産婦人科を再開して、地元（羽幌）で分娩ができるようにしたいとお話があり、助産師になる決意をしました。

Q. 仕事のやりがいはどこにありますか？

なんといっても、女性やそのご家族の人生に関わる『出産』に独占して立ち会えることです。責任も重大ですが、無事に産まれてみんなで喜び合う感動的な瞬間を味わえるのは助産師の醍醐味です。

Q. 仕事の上で大変なことはありますか？

特に分娩は母子の2人の命に携わるため、助産師断が重要となります。休日・夜間は助産師が1人体制のことも多く、責任は大きいです。「お産は病気じゃない」と言われますが、安全に産まれて初めてほっとできます。

Q. 思い出深い分娩はありましたか？

関わる一つひとつの分娩に思い出はありますが、自信のない新人の頃に初めて受け持った産婦さんが、陣痛があつて大変な時に、逆に新人助産師の私を励ましほめてくれて、無事に分娩ができて喜び合えたことです。助産師としての自信をつけて頂きました。

Q. 産前・産後の指導はどんなことを？

女性にとって妊娠・出産・子育ては人生の中での一大イベントであり、短期間で生活や心身の状態がめまぐるしく変化していきます。情報が氾濫している現在、母子と家族が安心・安全に対応できるように、身体的ケアや保健指導、カウンセリングを行っています。

Q. 産前の検査はどんなことがありますか？

妊婦検診に定期的に来てもらい、血圧・体重計測、超音波検査、血液検査、尿検査、子宮頸がん検診、おりもの検査などがあります。妊婦検診の公費負担として各市町村から補助券が配布されています。

Q. 新生児の検査はどんなことを？

生後1日と5日には小児科医による診察を行っています。出産後は、黄疸測定器で黄疸のチェックを毎日行い、必要時には黄疸の治療を行います。また、ビタミンK₂シロップの経口投与を行い乳児ビタミンK欠乏性出血予防をしています。

検査としては、生後3日に聴覚検査を行い、5日目に足裏から採血し、新生児マススクリーニング検査を行っています。

Q. 新生児の聴覚検査とは？

赤ちゃんの聴力障がいや早期に発見し治療をすることを目的として、生後3日目に行っています。赤ちゃんが眠っているときに機器を装着し検査を行うので、赤ちゃんへの負担はありません。再検査となった場合は、退院までに再度検査を実施し、再度再検査となった場合は、小児科医より専門医への紹介のお話があります。また、各市町村の公費負担の検討もされています。当院では昨年の11月に導入しています。

Q. 当院の助産師の特徴はありますか？

当院の助産師の特徴は、ベテランの助産師が多いことです。緊急時など、不測の事態が起きても落ち着いて対応ができ、新人助産師の教育もできます。

留萌市のような地方の病院では、産婦人科医や小児科医の不足が深刻な問題となっています。当院においても産婦人科医が出張体制で1～2名、小児科医は1名固定、1名出張体制で診療しており、医師の負担は大きいです。

そこで、私たち助産師の特徴を活かしてアドバンス助産師（助産実践能力を審査され一定の水準に達していることを認証された助産師）の取得を行い質の向上に努めています。医師の全面的なバックアッ

プもあり、昨年度より妊婦さんのサービス向上と医師の負担軽減を目的に助産師外来を開設しています。

1人1時間をかけて妊婦検診を行います。利用された方々からは高評価を得られており、今後は、受診枠を更に増やし、助産師としての力を発揮していきたいと思っています。

また、出産後の心身共に不安定な時期の赤ちゃんとお母さんの支援を行う目的として、2週間後検診も同時期に導入しています。保健師さんとも月に1度連絡会を開催し、地域で子育てを見守る取り組みも行っています。

Q. 当院を利用する方々へ何かありますか？

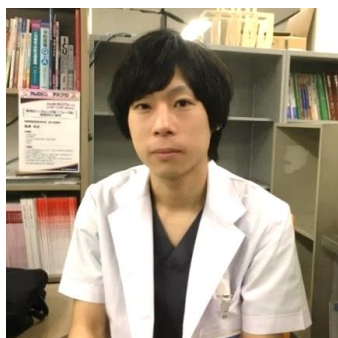
私たち助産師は、地域で安心して子供を産み育てることができるように、母子や家族に寄り添い支援しています。そして、地域に根ざした愛される助産師を目指していきます。

ぜひ、お産は地元でもらえたらと思います。こんなことができたならなど要望やご意見などいただければ、検討していきたいと考えています。よろしくをお願いします。



留萌地域の小児科医療

周産期医療の現状



留萌市立病院 小児科医

浜田 亮

小児科医療の現状

当院小児科は、留萌地域で数少ない小児科の1つであり、当院周産期病棟は唯一の分娩施設でもあります。地域全体の人口減少、少子化の影響で子供は減っていますが、1日20～30人の小児が外来を受診されます。感染症の流行時期は外来患者が50人を超えることもあります。また神経疾患(てんかんなど)・心臓疾患(心室中隔欠損症、不整脈など)・内分泌疾患(甲状腺機能異常など)の専門医が大学病院から月1回で診察に来ており、慢性疾患で定期受診されている小児が多数おります。

小児は基本元気であり、入院する機会は成人に比べると少ないです。ただし、乳幼児は体の小ささから脱水になりやすく、全身状態が悪くなると判断されれば入院することがあります。当院は感染症診療が中心であり、入院患者さんは1週間以内で元気になる場合がほとんどです。中には珍しい疾患に罹患する小児もいますが、当院ではICU管理が必要な重症児や、早急に専門医の介入が必要な症例でなければ、出来る限り対応するように努めています。

人口規模と有病率を考えると、新規に希少疾患が診断される機会は少ないと考えられるのですが、実際に診療をしていると当院でも年間10名弱が稀な疾患に罹患し、札幌や旭川

の高次病院に救急搬送や転院を依頼することがあります。道内の各地で小児科診療をしていると度々思うのですが、町の数だけ病気があると実感させられます。今後も一定の割合で重症疾患、希少疾患の小児は出てくると予想され、初期対応が重要であると感じています。

周産期医療の現状

お産では、やはり少子化の影響から以前と比べると減少傾向ではありますが、現在は年間130件程です。胎児エコーにより基礎疾患の存在が明らかな場合や、極端な早産は札幌や旭川の病院へ依頼しています。ハイリスクではない普通分娩については制限しておらず、帝王切開も可能です。妊娠分娩の性質上、慎重に管理をしても突発的な事態が起こることは避けられません。当院でも年間数件の緊急帝王切開があり、その都度産婦人科医と助産師に加え、麻酔科医と小児科医が協力して対応しています。また、正期産でも分娩過程の影響で赤ちゃんが呼吸障害をきたすことがあります。挿管症例でなければ、小児科医と周産期病棟の助産師、看護師が協力して当院で管理しております。

小児の予防医学

近年、小児の予防医学は大きく変化してきました。この10年で小児の定期接種ワクチンは倍近くに増え、特に乳児期早期の感染症罹患は大きく減少しています。生れたばかりの赤ちゃんに対しては、今まではガスリー法によるマススクリーニングが施行されてきました。マススクリーニングとは、代謝疾患がないかを出来る限り早期に診断するための検査です。2011年よりタンデムマス法が導入され、マススクリーニングで発見できる疾患が増えました。また、義務化はされていませんが新生児聴覚スクリーニングも普及してきました。2005年から事業が開始

され、都市部を中心に徐々に普及してきました。自動聴性脳幹反応検査(AABR)という方法が主流ですが、機器が高額であり、お産件数が限られる地方病院では導入が難しい状況が続いていましたが、2014年には分娩取扱機関の88%が聴覚スクリーニングを導入するに至りました。世間の認知度も高まり、母子手帳にも聴覚検査の結果記載欄が加えられ、それまで導入が難しかった地域でも、市町村が機器の導入費や検査費用の負担に前向きな姿勢を示すようになってきました。留萌では2016年頃より導入検討が始まり、2018年秋よりAABRによる聴覚スクリーニングを開始しています。今年度の時点では、留萌市と増毛町が検査費用を全額負担しています。今後は周辺市町村も費用負担を検討することと思われます。

先天性両側難聴は1000出生あたり1.2例と言われていています。それまでは健診で、医療者が意思疎通の難しい乳児に対し、音の鳴るおもちゃへの反応から聞こえているかどうかを判断していました。乳児ですので、啼泣により1回で検査ができない事が多々あり、場合によっては評価が難しいこともありました。AABRであれば出生直後に、重症度に関わらず聴覚障害をスクリーニングできるため、その後の言語発達の影響も考慮すると非常に有用な検査です。

今後も当院の小児医療、周産期医療が担う役割は変わらないと思います。留萌地域の子供達が健康で元気に過ごせるよう、日々診療にあたりたいと思います。

「留萌いい街だ」



麻酔科医

カツラ サキ

桂 さき



臨床研修医

カツラ マサシゲ

桂 真成

私たちが初めて留萌に来たのは2016年の6月の頃でした。留萌市立病院の見学のため、札幌からJRに乗って深川から留萌本線に乗り換え、窓の外側にある緑の世界を眺めながら時々ディーゼルの匂いがする車両の中がとても懐かしく感じました。

とてもきれいで涼しい風が留萌駅に着いた私たちを歓迎してくれました。見学は次の日だったので私たちは町を歩いて海まで歩いてみました。日差しは熱く、歩いたら少し汗をかきましたが、風が吹くとすぐに涼しくなり気持ち良かったです。黄金岬には限りなく広がる海が待っていました。私たちは休憩しながら「とてもいいところじゃない?」「留萌に住んでみたいなあ」などの話をしました。

次の日は病院見学でした。外国の病院の見学は初めてでしたのですごく緊張していました。院長先生の外来を見学させて頂いてから、病院や留萌市について紹介してもらいましたが、皆様がとても親切で良い印象でした。私たちはその日に留萌市立病院で初期研修を受けるとことをほぼ決めました。その時から一筋目標に向かって頑張るだけでした。日本医師国家試験に落ちたら見学もマッチングもすべてが水の泡でしたが、幸い国家試験に合格し、2017年3月の末から留萌に住むことができるようになりました。

私は4月から初期研修を始め、夫は銀行、市役所、入局管理局などから、住民になるため必要な手続きを担いました。職員の方から生活に役に立つ色々な情報を頂きました。初めての勤務は緊張の連続でした。韓国で日本語は勉強してきたとはいえ、まだまだ足りない状態だったので、会話をするのが精一杯でした。でも実践にぶつからないと日本語はもう伸びない状態だと思ったので、そこからはやるしかありませんでした。変なこと言っちゃったり、聞き取れなかったりして迷惑をかけてしまう時がありましたが、周りの人皆さんが親切に下さったため、少しずつ慣れるようになりました。皆さん！ありがとうございます！

今年は夫も国家試験に合格し初期研修も始まり、夫婦共に頑張っています。仕事がない週末にはよく美味しいものを食べにドライブをします。北海道の道はとても広く、道が混んでいないので気持ちいいドライブができます。それに加え北海道から採れる新鮮な食材から作った料理を食べると最高です。食べ物だけではなく。仕事を終え、病院から出ると黄金岬の夕日が遠くから見えます。こういう贅沢な景色を見ながら家に帰られることを幸せと感じます。夜になると今まで見られなかった夜空に星が広がっています。私たちはこういう大自然が満喫できる留萌の生活にとっても満足しています。これからも楽しみながら頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお祈りします！！

目
の
不
思
議

『紫外線はまぶしくない』

5月になると紫外線の強さは真夏に近いと言われてます。天気予報でも各地の紫外線情報が流れています。今回2回目となったこのコーナーは、これからの時期気になる紫外線についてです。

◎ 可視光線

人間の目の見える虹の七色、一般的には可視光線と言われてます。約400～700ナノメートルの波長範囲で、波長の短い紫から藍・青・緑・黄・橙・赤となっており赤よりも長い波長を赤外線紫よりも短い波長を紫外線と言います。人間の目に見える色は可視光線だけです。つまり紫外線も赤外線も見えないので、まぶしさと紫外線は関係ありません。

◎ 紫外線の影響

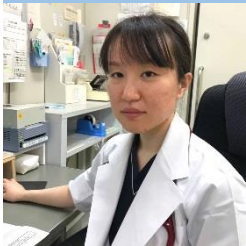
目が紫外線を長時間浴びると角膜が炎症を起こし、強い目の痛み、充血が起こります。紫外線を浴び続けると、目の細胞が壊れていき、白内障になる原因の一つとなります。長時間屋外に出るときは、しっかりと目の保護をすることが重要です。

◎ しっかりと目の保護を

太陽の日差しがまぶしい時に色の濃いサングラスをすれば安心か？答えは不正解です。きちんと紫外線カットが入っているレンズなのか注意して下さい。

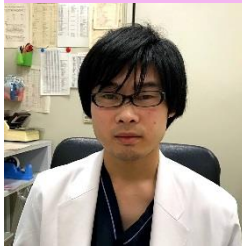
お肌に塗る“日焼け止めクリーム”のようなものが眼科用にはありません。これからの時期は、日傘、サングラス、つばの広い帽子、UVカットコンタクトレンズで目の紫外線対策を是非してください。

循環器内科
ぎどう さちえ



儀同
咲千江

消化器内科
わたなべ こういち



渡邊
晃一

消化器内科
みうら しょうご



三浦
翔吾

消化器内科
いいじま かずたか



飯島
一飛

いたばし たかひで



整形外科

板橋
尚秀

じんぼ しゅんすけ



整形外科

神保
俊介

わだ たかなり



眼科

和田
剛成

新任
医師
7名

栄養サポートチーム 専門療法士認定教育施設の認定

- ・栄養サポートチーム
NST (Nutrition Support Team)
- ・日本静脈経腸栄養学会
JSPEN (Japanese Society for
Parenteral & Enteral Nutrition)

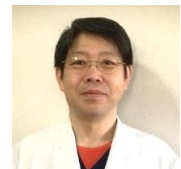
栄養サポートチーム (NST) とは、「医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師」等の多職種が専門知識を生かし、患者さんの栄養療法にあたる連携チームです。栄養サポートチームが早期に栄養介入することで、栄養状態の改善を通じた治療効果を高め、退院支援に貢献できます。

NSTの構成員を養成するためには、JSPEN (日本静脈経腸栄養学会) が認定した施設で40時間の研修を受ける必要があります。そのJSPENが認定する研修施設として、2019年4月1日から留萌市立病院が指定されています。北海道に約20ある認定施設に留萌市立病院が登録されたことで、当院でもNSTの今後の活躍に期待が高まっています。

● JSPEN認定資格保有者

日本静脈経腸栄養学会
指導医

星 智和
ほし ともかず



日本静脈経腸栄養学会
認定医

村松 博士
むらまつ ひろひと



CS委員会 広報班

酒井俊介
大川和洋
高橋篤史

大窪孝典
祐川直美
三浦李紗

橋本あずさ
吉田力也
田原瑞穂

POST SCRIPT

5月から新元号が「令和」となり、平成が歴史の1ページとなりました。令和生まれの赤ちゃんが大人になった時、広報誌「いもる」が“古い”と表現されるように作り続けていきたいです。

診療スケジュール

2019年5月現在

曜日	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総合内科	●	-	●	-	●	-	-	-	●	-
消化器内科	●	-	●	-	●	-	●	-	●	-
循環器内科	●	-	●	-	●	-	●	-	●	-
呼吸器内科 ※	-	-	-	-	●	-	-	-	●	-
神経精神科 ※	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-
小児科	●	●	●	-	●	●	●	-	●	●
外科	●	-	●	-	●	-	●	-	●	-
整形外科	●	-	-	-	●	-	●	-	●	-
産婦人科	●	-	●	-	●	-	●	-	●	-
皮膚科	▲	●	●	-	-	-	▲	●	-	-
形成外科	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-
泌尿器科	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-
耳鼻咽喉科 ※	▲	▲	●	-	-	-	-	-	-	-
眼科	●	-	●	-	●	-	●	-	●	-
脳神経外科	●	-	●	-	●	-	●	-	●	-

留萌市立病院



〒077-8511
北海道留萌市東雲町2丁目16番地1
TEL: 0164-49-1011
FAX: 0164-43-0337
ホームページ: <http://rumoi-hp.jp>

受付・診療時間

診療	午前 8:45 ~ 12:30	午後 1:30 ~ 5:15
外来受付	午前 8:15 ~ 11:30	午後 1:30 ~ 3:00
再来機受付	午前 8:15 ~ 11:30	午後 1:00 ~ 3:00

「●」 診療があります
「▲」 診療/休診や
受付時間が異なります
「-」 休診です
「※」 完全予約制です

Copyright©

カメラ素材: zcool.com.cn
ロゴ等素材: ACイラスト
フォント: キュウマ園 (数式フォント)
もじワク研究 (題名体マキナ/ピグモ00)
GAU (しろうさぎ)
フリーフォントの樹 (刻丸明朝かな/刻ゴシックLight)
フォントAC (Logisoso)